

令和6・7年度 大島地区指定研究協力校「指導方法改善」

研究紀要

研究主題

主体的に自己・友達・教材と向き合い、
相手意識をもって表現する子供の育成

～国語科「読む領域」を通して～



令和7年11月12日(水)
伊仙町立伊仙小学校

研究の構想

【学校教育目標】

人権尊重の理念を基に、美しい心と生きぬく力をもった伊仙の子供を育成する
【教育理念】キムギュラーン(美しい心)

【子供の実態】

- ・学習に対して受け身である
- ・自分の思いや考えを表現するのが苦手
- ・文章を読むことが苦手

【教師の願い】

- ・学習に意欲的に取り組んでほしい
- ・相手意識をもち、友達と学び合ってほしい
- ・自ら文字や読書に親しんでほしい

【研究主題】

主体的に自己・友達・教材と向き合い、
相手意識をもって表現する子供の育成
～国語科「読む領域」を通して～

【目指す子供像】

- 学習の見通しをもち、主体的に学ぶことができる子供
- 相手意識をもって表現し、伝え合うことができる子供
- 学びを振り返り、自身の変容や友達との関わりを次の学習につなぐことができる子供

目指す子供像のイメージ表

	低	中	高
①学習の見通しをもち、 主体的に学ぶ子供	学習の流れ 伊仙スタンダード	学びの自己選択	新たな問い
②相手意識をもって表現し、 伝え合う子供	理由 つながりセブン 大事なことを落とさずに集中して聞く 話の内容を捉えながら聞く	共通点・相違点 記録・質問しながら聞く 話の中心を捉えながら聞く	比較・分類・関連付け 広げる 目的や意図に応じて聞く 話し手の考えと比較しながら聞く
③学びを振り返り、自身の 変容や友達との関わりを 次の学習につなぐ子供	記号・言葉で ふりかえりいせん	文章で	複数の観点で

【研究内容】

【仮説1】

学習の見通しをもたせ、学びを促すための工夫を設定することで、主体的に自己・友達・教材と向き合い、学習に取り組むことができるのではないだろうか。

【研究内容1】 主体的に自己・友達・教材と向き合うための工夫

- (1) 見通しを大切にした学習過程
- (2) 相手意識をもった言語活動の設定
- (3) 指導事項や国語用語の明確化
- (4) 語彙を支える並行読書の推進
- (5) 家庭学習との連携

【仮説2】

授業における学習方法や学習形態の工夫・改善を図ることで、相手意識をもって表現し、伝え合うことができるのではないだろうか。

【研究内容2】 相手意識をもって表現し、伝え合うための工夫

- (1) 学びを促進・支援するワークシートやICT等の活用
- (2) 一斉指導・個別指導・自己選択学習のコーディネート
- (3) 友達との学び合い・磨き合いの促進

【仮説3】

振り返りの視点や振り返りの方法を示すことで、自身の変容や学び、友達との関わりの良さを自覚し、次の学習につなぐことができるのではないだろうか。

【研究内容3】 自身の変容や学び、友達との関わりの良さを自覚し、 次の学習につなぐための工夫

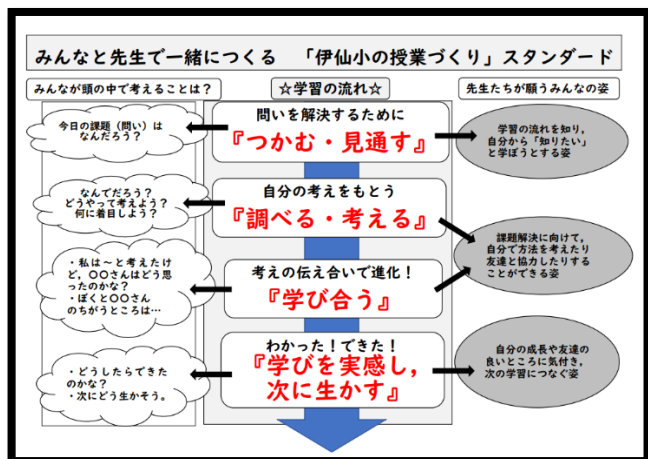
- (1) 振り返りの視点の設定
- (2) 振り返りの方法

2 研究の実際

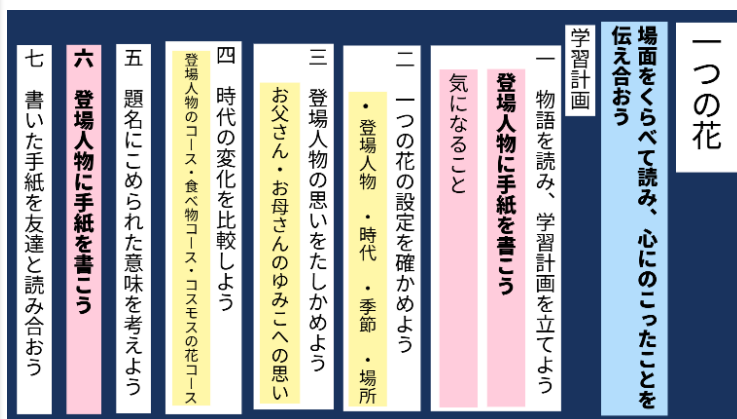
研究内容Ⅰ 主体的に自己・友達・教材と向き合うための工夫

(1) 見通しを大切にした学習過程

児童が見通しをもって学習を進めることができるように、「資料①伊仙小の授業づくりスタンダード」を作成し、各教室に掲示することで意識化を図った。また、児童と一緒に学習計画を立てることで、主体的に学習を進めることができるようにした。



【資料①伊仙小の授業づくりスタンダード】



【児童と一緒に作成した学習計画表（4年生）】

(2) 相手意識をもった言語活動

主体的な学びを促すために、「資料②文学的教材の系統一覧表」を作成し、単元のゴールを設定した。ゴールを明確にすることで、主体的に教材と向き合う姿や友達と一緒に学習に取り組む姿が見られた。



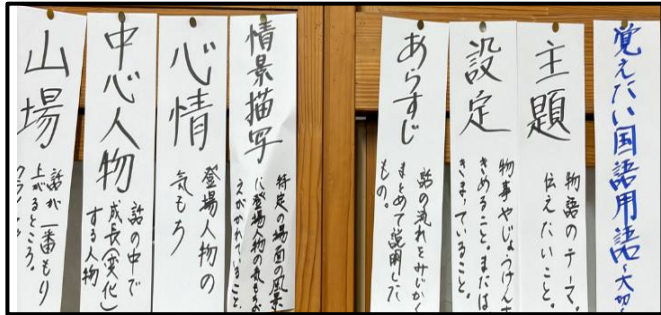
「おおきな かぶ」の音読劇を言語活動に位置付けた。2つのチームに分かれ、チームごとに音読劇をするというゴールが明確になったため、主体的に音読の練習をする姿が見られた。一人で読むところ、ペアで読むところ、全員で読むところなどグループごとに工夫が見られ、互いを称賛することもできた音読劇となり、音読の楽しさを味わうことができた。【1年生】

「本で知ったことをクイズにしよう」では、クイズ大会を単元のゴールに設定することで、意欲的に本を読み、調べたことをノートに箇条書きにしたり要点をまとめたりすることができた。また、クイズづくりでは、相手に分かりやすく伝えるための文章作りに主体的に取り組むことができた。【3年生】



(3) 指導事項や国語用語の明確化

どの学年でどのような技能をpushさえるべきなのかを明確にするために、各学年でpushさえるべき読みの技能と国語用語の系統性を記した「資料③文学的教材の系統指導カリキュラム」を作成した。また、国語用語を教室に掲示し、児童が覚えることで、児童自身の主体的な読みの力の育成につなげた。



単元ごとに出てくる国語用語を教室に掲示した。そうすることで、それ以降の学習においても活用することができた。【5年生】

(4) 語彙を支える並行読書

教材についての興味・関心を高めるために、並行読書に取り組んだ。ブックリストを作成し、朝読書や休み時間、週1回伊仙スタディ（習熟）の時間、月1回の親子読書で活用できるようにした。本を教室に置くことで、「手に取ってみたい。」という意欲を高めることができた。

並行読書のためのブックリスト

6年生 教材名

書名	著者名	出版社	図書室	伊仙図書館
わらぐつの中の神様	杉みき子/著	岩崎書店	○	
北風のわすれたハンカチ	安房直子/作	偕成社	○	
ゼロひきのゴージュ	宮沢賢治/原作	理論社	○	○
どんぐりとやまねこ	宮沢賢治/原作	理論社	○	○
ちゅうもんのおおいりょうりてん	宮沢賢治/原作	理論社	○	○
やまなし	宮沢賢治/原作	理論社	○	○
きんがてつどうのよる	宮沢賢治/原作	理論社	○	○

【ブックリスト(6年生)】

1学期に「やまなし」の読み聞かせをすることで、早い時期からやまなしの世界に触れさせた。その後、町立図書館から宮沢賢治の作品を借りてきて学級文庫に置くことで、少しずつ手に取り読むようになった。宮沢賢治の世界観に興味を示す児童が増えた。【6年生】



(5) 家庭学習との連携

家庭学習は、授業で学んだ内容の定着だけでなく、事前学習に取り組むことで学習意欲の高まりが期待できると考えた。児童が事前に家庭学習で意味調べをしたり、音読をしたりすることで、物語の大体の内容を捉えられるようにした。

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	言葉	意味
青くすも	構内	死没者	寸前	とめどなく	心当たり	遺族	納骨	伏魔	たすねびと		

☆ たすねびとに出ている言葉の意味を調べましょう。

【複雑な言葉をリストアップ】

① たすねびと	行方不明からずどこにさがすこと。また、その人。
② 目にとがこむ	視界に入るはんいに入らずそちらを見てしまふ。
③ 伊蓋	仏像などに対してそんな尊厳を込めてお祈りすること。
④ 納骨	死した個人の遺骨を骨壘にお墓に納めること。
⑤ 遺族	死した者の家族や親類。
⑥ 心当たり	心に思いあたること。
⑦ 遺爆	原子爆弾の略。
⑧ とめどなく	怒れるところがない。
⑨ 寸前	ほんのちがうと前。
⑩ 構内	建物の中。
⑪ 青くすも	空が液体に曇りや濁りが

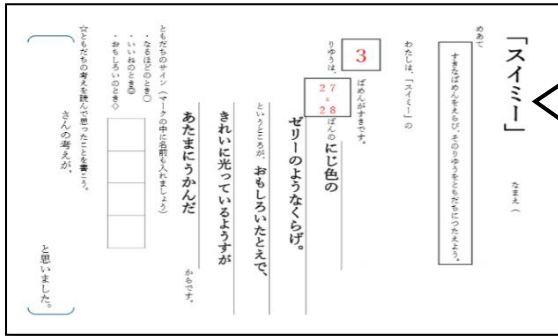
【意味調べ(5年生)】

学習意欲の高まり

研究内容2 相手意識をもって表現し、伝え合うための工夫

(1) 学びを促進・支援するワークシートやICT等の活用

ワークシートやICTは、児童の学習を手助けするだけでなく、思考を活性化させ、考えを簡潔に分かりやすく表現する際に有効である。各学級の実態や学習内容に合わせて活用することで、学びを促進・支援できると考えた。



「スイミー」の学習では、自分の考えを理由と共に表現し、伝え合うことができるようにワークシートを作成した。好きな場面とその理由を記入する際、全文シートも活用することで表現に着目しながら自分の考えを書くことができた。また、友達と交流する際、ワークシートにサインをし合うことで自信と相手意識を高めることができた。【2年生】

(2) 一斉指導・個別指導・自己選択学習のコーディネート

学習を進める際、単元全体を見通し、どのように学習を進めていくのかを考え、単元の中で一斉指導と自己選択学習を取り入れ、一斉指導の中で押さえるべき部分と自己選択学習で各自の主体性を生かす部分で計画を行った。一斉指導では、学習課題が同一のため、全体のペースを考え、全体で共通して取り組んだ。自己選択学習では、各自でめあてを立てて取り組んだり、自由に席を移動し、ペアやグループを組み、タブレットやホワイトボード、黒板などを選択したりして取り組んだ。選択の場面を設定することで、学びが主体的になり、活動も意欲的になった。(資料④参照)



【たずねびと(5年生)】

(3) 友達との学び合い・磨き合いの促進

教師による指名で児童が答えるという一方向だけでなく、児童同士で付け加えたり、質問し合ったりすることができるように、話型「資料⑤つながりセブン」を作成した。また、意見がまとまらないという課題を受け、話し合いの話型「資料⑥ペア・グループ交流カード」を作成し、活用した。さらに、教師も意図に沿って発問し、学びが深まるように「資料⑦物語文発問名人カード」を作成し、活用するようになった。

指導計画 (全8時間)	主な学習活動	指導上の留意点
1	【一斉指導】 1 昨年12月26日(金)に開催された「たずねびと」の70周年記念行事に参加した。戦争や戦争をテーマにした物語の面白さについて話し合う。 2 全文を読み、感想や疑問、物語の構成(「たずねびとのかげおくり」や「一つの花」)の比較を話し合う。 3 読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。 4 教師が作成した「たずねびと」のリーフレットを参考に、これまで学んだ物語の読み方を生かしながら読んでいく学習計画を立てる。	○ 既習教材と比較させ、「たずねびと」は、今を語っていることに気付かせる。 ○ 「たずねびと」の物語の面白さを話し合せる。 ○ 読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。 ○ リーフレットの項目を学習計画に結び付けさせる。
2	【ペア・グループ】 1 全文を音読する。 2 時間や場所を表す言葉に着目しながら、物語の構成と、読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。 3 読み手の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。	○ 疑問を解決するために、場面や場面に着目することを指導する。 ○ 「たずねびと」に言葉の意味を話し合せる。
3	【ペア・グループ】 1 読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。	○ 読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。
4	【自己選択学習①】 1 自分の問いを見つけ、解決する①	○ 自分で問いを立て、考える。
5	【自己選択学習②】 1 自分の問いを見つけ、解決する②	○ 自分で問いを立て、考える。
6	【一斉指導】 1 物語に登場する人物を書き出す。 2 登場人物たちが、主人公の気持ちの変化にどのような役割を果たしているかを考える。 3 人物の気持ちを話し合う。話し合う。	○ 人物の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。
7	【ペア・グループ】 1 物語を読み、読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。 2 これまでの読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。 3 作成したリーフレットを話し合せてもらう。	○ これまでの読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。
8	1 読み手(主人公)の気持ちや登場人物の気持ちについて話し合う。自分だったら何を伝えたいかという学習課題を設定する。 2 学習の感想を話し合い、自分の学びを深め、広げる。 3 物語学習の振り返りをする。	○ 今を生きている自分が、これからどう戦争に向き合っていくか考えさせる。ともに、学びの方法を振り返らせる。

【資料④たずねびと(5年生)】

研究内容3 自身の変容や学び、友達との関わりの良さを自覚し、次の学習につなぐための工夫

(1) 振り返りの視点の設定

学習を振り返ることは、授業における自分の学びや成長への気づきを促すことになり、より深い学びへとつながる。そして自己の学習への満足感を高め、次の学習への意欲向上につながる。そこで、振り返りカード(資料⑧・⑨)を作成し、活用することにした。視点を焦点化することで、振り返りを短時間で効果的に行うことができた。カードは、教室に掲示したり教科書に貼ったりワークシートの裏に載せたりして、いつでも確認できるようにした。

ふりかえり(いせん)
I(いけん、おもい)
じぶんのいけんをもてたかな ともだちのいけんをいえたかな いろいろなともだちのいけんをきけたかな ☆つぎはともだちのいけんをきかせようか
せ(せいりっぱい)
せいりっぱいがんばることができたかな ともだちときょうりょくできたかな なにか、たのしかったかな ☆つぎは、どんなことがたのしみですか
ん(はっけん)
あたらしくはっけんしたことはなにか あたらしくなにかにちょうせんしたかな ☆つぎは、どんなことにちょうせんしたいですか

【資料⑧振り返り(いせん)】
【1・2年生用】

ふりかえり(ISEN)
I アイデア(考え)
自分の意見をもてたかな 友達に意見を伝えたかな 友達の意見を聞いて考えたかな ☆次は友達にどんなことを生かせるかな
S スマイル(友達との関わり)
自分の頑張りに満足できましたか 友達と協力できましたか 友達のいい意見を見つけられたかな ☆次は友達にどんな声をかけるかな
E エンジョイ(授業の満足度)
楽しく取り組みましたか どんなことが楽しかったですか ☆次はどんなことが楽しみですか
N ニュー(新たな感動)
新しく何がわかったかな 新しく何を知ったかな 新しく何かにちょうせんしたかな

【資料⑨振り返り(ISEN)】
【3～6年生用】



【振り返りを行う児童の様子】

(2) 振り返りの方法

以下の方法で、学級の実態に合わせて振り返りを行った。

- ① 口頭で発表する。
- ② ノートやワークシートに記述後、発表する。
- ③ ロイロノートで、観点ごとに◎○△を記入し、記述後発表する。



【ワークシートに振り返りを記入する児童】



【タブレットを活用して振り返りを行う児童】

ロイロノートを活用して振り返りを行った。単元全体を通して振り返りができるように、表を作成し、3段階評価と記述を組み合わせることで記録できるようにした。初めのうちは時間がかかったが、繰り返し取り組むことで、短時間でできるようになった。また、振り返りを見返すことで、前時までの学習内容を一目で振り返ることができた。児童も自身の成長を感じることができた。【4年生】

3 研究の成果と課題

(1) 各種調査結果から見られる児童の変容

【全国学力・学習状況調査】※全国平均との比較

	国語
R 6年	70 (+2.8)
R 7年	76 (+9.2)

【鹿児島学力・学習状況調査】※県平均との比較

	国語
R 5年	78.7 (+9)
R 6年	77.4 (+12.8)

【学習に関する校内意識調査】※ () は前年比

(%)

質問項目	文章を読んで書かれたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	物語を読んで感じたことや分かったことを伝え合うことができる。	国語の学習で好きな活動は何か。「ペアやグループで考えること」	順序に気を付けながら読み、大体の内容をとらえることができる。
R 6年 (6月)	53	78	38	88
R 7年 (6月)	61 (+8)	81 (+3)	42 (+4)	77 (-11)

(2) 研究の成果と課題

	研究内容 1	研究内容 2	研究内容 3
成果	相手意識をもった言語活動や並行読書など、友達や教材に向き合う場を設定したことで、意欲的に学習に取り組み、自分の考えを深めたり広げたりする児童が増えた。教師も、指導事項や国語用語を明確化したことで意識して指導することができた。	ワークシートや ICT を活用したり、児童自身に学ぶ方法を自己選択・自己決定させたことで、自分の思いや考えを表現できる児童が増えてきた。また、話型を示すことで、発表や意見交流の仕方を身に付け、伝え合う楽しさを実感する児童が増えた。	振り返りカードを作成し視点を焦点化させ、いつでも確認できるように工夫したことで、進んで振り返りを行うようになった。友達と交流する中で、新たな気付きや満足感を得る児童の姿も見られるようになってきた。
課題	物語の大体の内容が捉えられるような読みの手立てを工夫していきたい。家庭学習の取り組み方や保護者の関わり方が積極的なところとそうでないところとの差があるため、家庭学習の工夫改善を図り、自主的な取組につなげていきたい。	教師や友達の話聞くことについて課題のある児童もいる。そのことで指示が伝わらず、学習活動が進まない、話合いの折り合いがつかない等の課題がある。今後は、聞く力の育成にも取り組んでいきたい。	振り返り活動の深まりを目指し、教師自身も児童の活動を振り返り、よかった点や子供同士では気付きにくい点をフィードバックさせるなど友達の良さや次時へつなぐための振り返りに取り組んでいきたい。